第36回 2020 たいしょう人権展

ダイバーシティ～こどもの笑顔が輝くまち～

「読む」「見る」「聞く」新たなスタイルの人権展

この人権展は、1983年2月の「大浪橋差別落書き事件」を契機として、人権問題の早期解決を願い、1985年12月に通天閣で「第1回なにわ人権展」を開催し現在は、浪速・大正・港・西の4区役所の主催で「地域人権展協力者会議」と協力して開催しているものです。

新型コロナウイルスの感染を拡大させない取り組みの中で、今回は、「読む人権展」「見る人権展」「聞く人権展」として会場参加型ではない新たなスタイルで工夫を凝らした試みを展開しました。

■「読む人権展　STAY HOME JT」　配布期間　11月1日～11月30日（1か月）

新型コロナウイルスの感染を拡大させない取り組みのメインとして、区内全戸に４ページで構成された人権に関するイベント情報・人権情報をお届けするタブロイド紙を作成し配布しました。

■「見る人権展」　上映期間　11月28日～12月11日（2週間）

西区九条にある映画館「シネ・ヌーヴォ」にて、たいしょう人権展コラボ上映として、障がい者や家族に焦点を当てた作品「普通に死ぬ」「種をまく人」を特別鑑賞料金にて鑑賞できるようにしました。

区長メッセージ動画上映や、映画鑑賞者を対象にしたオンライン交流会も開催しました。

■「聞く人権展」　放送期間 11月30日～12月11日（15日間）

コミュニティ FM「YES-fm」にて特別番組を５日間連続で放送しました。番組内でコラボコーナー「人権って○○なんだよ本当は」として、日替わりで人権問題に取り組んでおられる方々にゲスト出演していただき、様々な角度から改めて人権の意味を考えました。映画監督がラジオのゲストとして出演、中高生の人権標語やハッシュタグ等を放送することで、特別番組への誘導を図りました。